

平成 19 年度 第 4 回理事会議事抄録

日 時：平成 19 年 9 月 29 日(土) 13:00～17:00

場 所：新事務局

出 席：藤田 龍一(会長) 清水 兼悦(副会長)

池田 望 伊藤 隆 柿崎 貴浩 菊地 啓介 佐藤 裕一 仙石 泰仁 藤坂 広幸 水上 伸子(理事)

澤田 雄二(監事) 坂上 哲可(事務局長) 北島久恵(書記)

欠席者：村田 和香(副会長) 山田 毅 吉岡 英章(理事)

【検討事項】

1. 企画調整委員会答申について

三役会(9/20)にて内容は報告済みであり、本理事会でこの答申内容を検討議題(第3回企画調整委員会(9/6)の会議資料に基づいて)とし、了承を得たい。

1) 広報部の名称および業務、事業部の業務について

広報部内に「広報課(議案の第一広報部に相当)」「企画課(議案の第二広報部に相当)」を設置し、前者は従来の会員向けの内向き広報、後者は非会員向けの外向き広報を展開する。広報部広報課は会員への活動、士会員増員・増大に関する企画調整、入会促進、広報部企画課はOT・道士会の企画・広報、広報媒体企画(関連団体・北海道民に向けてのイベント企画、インターネット等)である。広報部企画課が企画した内容を事業部、渉外部と一緒に実行していく。担当理事は、広報課は山田理事、企画課は佐藤理事で、山田理事は広報部部长も兼務する。広報課課長は小笠原氏、企画課課長は竹内氏とする。事業部は、運営メインの部署であるが、公益活動の企画および運営、他の部署(特に広報部)が企画する事業の援助、広報媒体の配布・展示・販売、事業部主催の講習やイベントの企画・運営とする。 →承認

2) 情報伝達の流れについて

(各部員へ) 企画調整委員→三役会→理事会(各部担当理事へ)→各部長→各部員、(各部員から)各部員→各部長→各部担当理事→理事会の流れを基本原則とする。3ヶ月間でこの流れを徹底し、11月、翌年1月の理事会で再検討する。また理事会の資料等を理事、各部長に配布する。 →承認

3) 他の部署の業務について

調査部：道士会運営の調査、HPの管理運営、会員動態調査であり、会員の入退会や会員名簿の取り扱いは総務部に移行する。 →承認

渉外部：部長は未定だが、関係省庁との折衝、関連団体・組織・関係者との渉外を実施する。部長の選定は担当理事に一任 →承認

学術部：学術資料の作成と収集、学術誌編集を行い、学術誌はジャーナリズム的な意味合い(特集記事など)を含め、会員に役立つ内容を提供することで、今後、具体案を提示してもらう。 →承認

教育部：札幌支部プロジェクトの立ち上がりを待ちつつ、卒前教育、生涯教育、研修・講習会、専門基準をこれまで通り実施する。 →承認

福利部：地位及び待遇の向上、職場開拓、その他福利厚生を行う。 →承認

4) その他(理事の在り方、事務局体制、委嘱状、名刺の発行について)

・理事の在り方(常務理事や執行理事の設置)は、今後の検討課題とする。 →継続

・事務局から調査部と渉外部を独立させ、財務部、総務部のみとする。 →承認

・委嘱状の発行は、部局から依頼された時点で事務局にて発行し理事会でまとめて承認されていたが、今後は、理事会の承認を得てから発行することを徹底する。 →承認

・名刺は、理事に原則として配布することとし、各部長は必要に応じて配布する。 →承認

2. 新入会員、部員、委員の承認について

1) 新入会員；172名(再入会8名)

→承認

2) 部員、委員；事業部部員の森山氏、藤澤氏、水野氏、岩崎氏は広報部企画課に異動する。

→承認

3) 部長, 担当理事

総務部長 ; 小形 和浩	担当 ; 事務局長
財務部長 ; 加藤 恵子	担当 ; 事務局長
学術部長 ; 境 信哉	担当理事 ; 仙石理事
教育部長 ; 木下 浩也	担当理事 ; 仙石理事
事業部長 ; 森林 史代	担当理事 ; 菊地理事、水上理事
保険部長 ; 伊藤 玲	担当理事 ; 伊藤理事、藤坂理事
福利部長 ; 板垣 徹	担当理事 ; 柿崎理事
渉外部長 ; 伊藤理事(仮)	
調査部長 ; 未定	担当理事 ; 伊藤理事
広報部長 ; 山田理事	
広報課長 ; 小笠原 和彦	担当理事 ; 山田理事
企画課長 ; 竹内 大人	担当理事 ; 佐藤理事
学会評議委員長 ; 保科 和正	担当理事 ; 池田理事
総会議事運営委員長 ; 栄 志津江	担当 ; 事務局長
企画調整委員長 ; 三宅 環	担当理事 ; 吉岡理事
白書委員長 ; 未定	担当理事 ; 藤坂理事
規約検討委員長 ; 未定	
40周年記念事業準備委員長 ; 未定	

→承認

3. その他

- 1) 部員の増員, 兼務について : 年度中の増員および部員の兼務は基本的に認められない。
- 2) 会議費や食事代の見直しの必要性
- 3) 部長を含めた合同理事会の開催 (11/17) の決定

→承認
→継続
→承認

【報告事項】

【三役会報告】 9/20(木) 18:30~21:00

- ・企画調整委員会答申について → 検討議題
事業部、広報企画合同会議報告 ; 清水副会長
- ・協会表彰推薦について(渉外部参照)
- ・札幌支部強化プロジェクト進捗状況 ; 清水副会長
- ・(社)日本作業療法士協会「第5回協会・都道府県士会合同役職者研修会(9/8.9)報告 ; 会長
道士会の運営 ; 支部組織の強化について報告し、各都道府県から参考になると評価を受けた。

【各部署報告】

<総務部>

- ・専門学校北海道リハビリテーション大学校交友会「第4回講習会(10/20) 名義後援依頼(8/29) ; 承諾
- ・(社)北海道医師会「第87回北海道医学大会(9/29)」案内(9/5) ; HP掲載
- ・(社)日本作業療法士協会広報部「士会事業のCM放映案内」(9/10) ; 事業の2ヶ月前より降随時受け付け
- ・田辺製薬(株)「平成19年度北海道・東北地区リウマチケア研修会(11/18)」案内(9/18) ; HP掲載
- ・札幌事務所パソコン, プリンター設置(9/20)、パソコン, インターネットの設定(10/3)
- ・いきいき福祉2007(10/12~14) ; HP掲載
会場 ; アクセス札幌 道士会担当ブース ; 「簡単に作ろう介護用品! 体験広場」
加藤先生を中心に4名で実施予定. 3日間に渡るハードスケジュールなため、都合がつく理事に参加して欲しい。
- ・北海道プライマリ・ケア研究会「第46回北海道プライマリ・ケア研究会学術集会(10/21)」案内(9/25) ; HP

【出版物・報告関係】

- ・(社)北海道歯科衛生士会「会報 No82」(8/30)
- ・(社)北海道放射線技師会「北海道放射線技師会報2007, 9月号」(8/31)
- ・(財)北海道高齢者問題研究協会「機関誌 HGR 第23号」(9/4)
- ・(社)北海道医師会「第87回北海道医学大会プログラム」(9/5)

<渉外部>

- ・JDD ネット北海道事務局「全国LD親の会北海道ブロック研修会(11/10)」案内(8/28 メール)
- ・(社)北海道柔道整復師会「社団設立30周年・創立75周年記念講演、式典、祝賀会(10/28)」案内(8/30)；会長出席予定
- ・北海道保健福祉部福祉局福祉援護課「北海道福祉のまちづくり推進連絡協議会(9/3)」会長、事務局長出席
- ・(有)北海道広報社「19年度版北海道関連団体役員名簿」原稿作成依頼(9/5)；三役のみ名前、職場明記で提出、その他の理事は名前のみで提出(9/21)
- ・(社)日本作業療法士協会「第5回協会・都道府県士会合同役職者研修会(9/8.9)」会長出席
- ・北海道介護支援専門員協会入会申込(9/14)
- ・札幌デジタルアート専門学校校長、事務長が来訪依頼(9/4)；会長対応(9/19)
- ・(社)日本作業療法士協会「作業療法功労者の協会表彰」推薦書類作成中；9/24締切 設楽氏を推薦
他3名：澤田氏(本人の都合により次年度申請)、落合氏・曳地氏(辞退)

<調査部>

- ・会員数；1,719名 新入会員；172名(再入会8名) 退会者35名 資格喪失35名

<福利部>

- ・研修会等の託児支援；学会実行委員会及び支部から情報を得てマニュアル化を検討予定
- ・施設情報の作成準備；会員名簿合冊の施設情報誌作成のため情報収集をオンラインで行う予定
- ・新年交礼会準備；平成20年1月26日(土) 札幌グランドホテルにて17:30開始予定
- ・団体保険；各部局・支部のから会議実績を提出依頼中
- ・新規事業；第二次長期10ヵ年計画に基づいて福利厚生・組織強化にかかる事業を検討中

<広報部>

- ・道士会ニュース10月号の編集、発行準備
- ・士会ニュースに求められているもの、内容についての検討
発行回数の増加、会員への情報伝達の迅速化(多くのニュースソースの管理)
札幌支部の紹介について；札幌支部強化案があり、その内容を清水理事に依頼予定
支部紹介の今後について；支部紹介が一巡後の支部の記事について
地域リハコラム；12月号からの開始予定
- ・アンケート実施について
小樽学会で士会ニュースがどう読まれているのか、質問紙を作りアンケートを行う
士会事務局と学会事務局へ許可済み

<学会評議員会>

- ・小樽学会へ学会備品の受け渡し完了
- ・石狩学会実行委員会の開催；9/21(金)

<支部>

- ・札幌支部の進捗状況；委員会(9/12(木)19:30-21:00)

札幌支部強化プロジェクトは、1万円の会費増額に対する会員への還元として、学術・教育的側面からネットワークを構築し、札幌支部の人的資源を活用しながら公益的事業に力を入れると共に、保険部と連携して会員への情報を還元し、職域を守るために広報部と連携をとりながら、2年間で軌道に乗せていくプロジェクトである。札幌を4ブロックに分類し、各ブロックの会員は約200名程度になる予定。各ブロックには担当学校、第1代表(スタッフ数の多い施設)、第2代表(小規模で若いスタッフが多い施設)を設置し、会計係は外崎氏(札幌山の上病院)に依頼。支部連絡協議会(11/10)にて予算請求する予定。

当面は、地域の民間資本を導入し地域への施設の宣伝や道士会活動をPRしていく。事業案は市民に対するもの(市民公開講座、パネル展の般化等)、関連職域・関連施設に対するもの(ケアワーカーへのデモンストレーション、福祉ケア施設でのOTの認知度の向上の事例)、スタッフ不在地域や分野を超えたスタッフへの支援を継続、札幌市や支部メンバーに対しても事業を展開していく。また、各病院の研修会等をオープンにしていき、教育部と連携することで若い会員がポイント取得しやすいように、または領域を離れた会員、戻りたい領域の会員に還元できるようにしていく。さらに、他支部の会員が札幌を来訪したときに参加できるようにし、他支部の会員にも還元できるようにしていく。